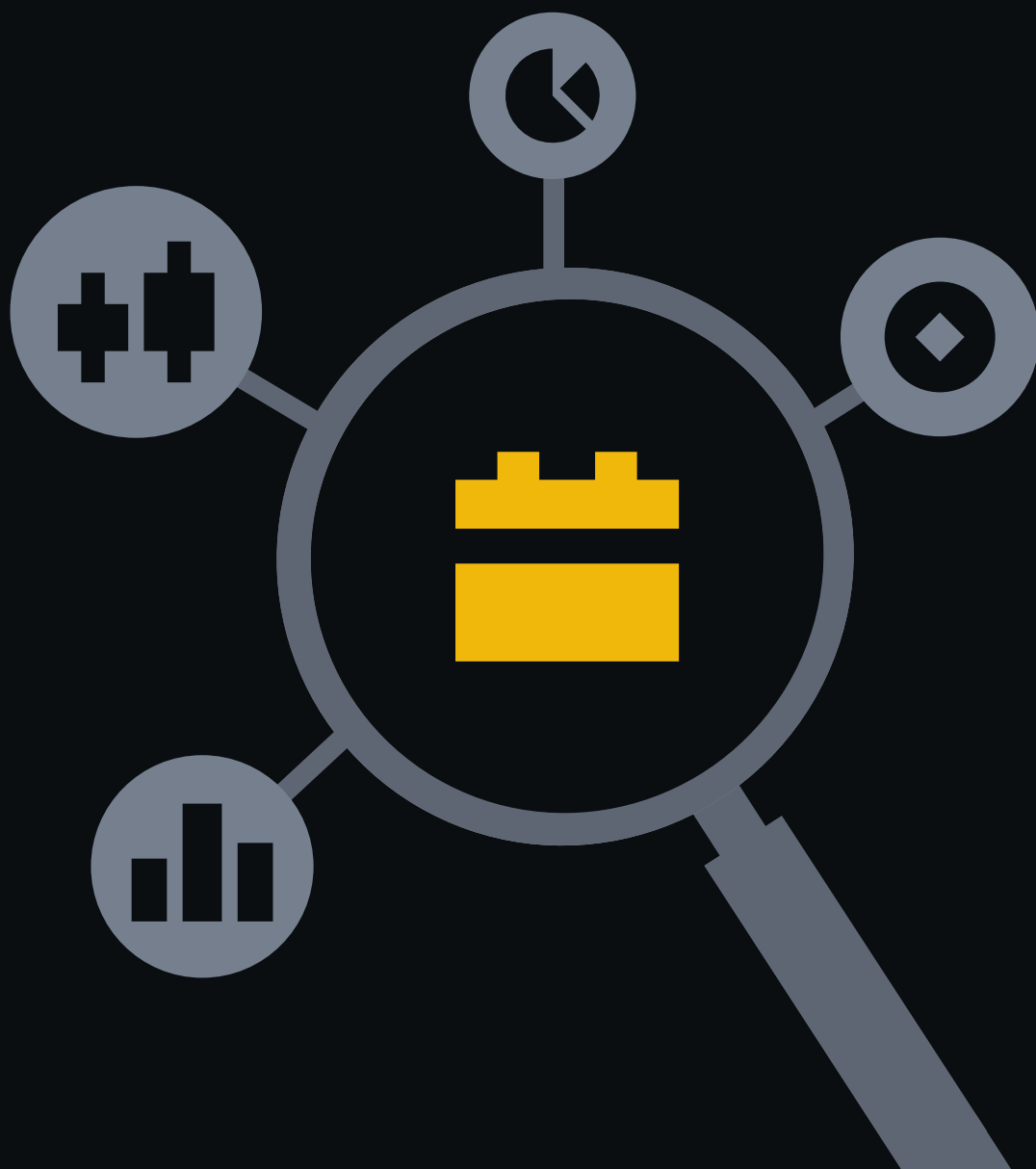


月次市場洞察

2024年12月



目次

01 / 要点	2
02 / 暗号資産市場のパフォーマンス	3
2.1 分散型金融（DeFi）	5
2.2 非代替性トークン（NFT）	6
03 / 今月のチャート	8
11月、ETFで過去最高の資本流入額を記録	8
アルトコインシーズンの再来	9
ソラナでの発生手数料が史上最高値に急騰	10
イーサリアムとトロンのUSDTドミナンス順位が入れ替わる	11
04 / 今後のイベントとトークンのアンロック	12
05 / 参考資料	13
06 / 最新のBinance Researchレポート	14
Binance Researchについて	15
リソース	17

01 / 要点

- 2024年11月、暗号資産市場全体の時価総額は39.9%急増し、2021年11月以来初となる3兆米ドルに到達しました。このマイルストーン達成の主な要因は、おもに米国大統領選挙後の顕著な楽観主義の中、機関投資家からの新たな関心が集まり、暗号資産ETFへの大幅な資本流入がもたらされたこととなっています。
- ビットコインおよびイーサリアムの両方で、現物ETFへの資本流入額は11月に新記録を更新しました。米国におけるビットコイン現物ETFの純資本流入額は、週間で過去最大（11月18日～22日の純資本流入額：33億米ドル）となり、月間で65億米ドルとなりました。11月におけるイーサリアム現物ETFでは純資本流入額が11億米ドルとなり、11月29日には過去最高となる約3億3,000万米ドルの日次純資本流入額を記録しました。全体として、ビットコインETFは本年1月の発売以来、300億米ドル超の純資本流入を記録しており、イーサリアムETFでは本年7月の発売以来5億7,700万米ドルの純資本流入を記録しています。BlackRockのiShares Bitcoin Trust（IBIT）は、その累積資本流入額が310億米ドル超、資産額が420億米ドルであり、同市場全体の約40%を占めるトッププレイヤーとなっています。一方、イーサリアムに関しては、Grayscaleが運用するETFが上位となっており、その資産額は50億米ドル超となっています。
- 11月はアルトコインが勢いを増し、CoinMarketCapのアルトコインシーズン指数（Altcoin Season Index）は27から70に上昇し、その時価総額は前月比で1兆米ドルから1兆4,700億米ドルに増加しました。一方、同指数はまだCoinMarketCapが定めるアルトコインシーズンのしきい値に到達しておらず、上昇トレンドの持続可能性を見極めるために当たり今後数週間が重要となります。
- 11月15日以降、11月に分散型取引所（DEX）の取引高が1,200億米ドル超に急増したことに牽引され、ソラナで発生する1日あたりの手数料がイーサリアムでのものを上回り、11月21日に1,400万米ドルの過去最高値を記録しました。こうした取引高急増の一因となったミームコイン取引に関し、pump.funプラットフォームは不適切なコンテンツについての拒否反応を受け、ライブストリーミング機能を一時停止しました。ブロックチェーンのパーミッションレス型の市場により、リソース配分がますます可能となる中、同業界の今後の成長において責任ある利用が定着するかが問われます。
- 2022年6月以来初めて、イーサリアムはUSDTステーブルコインが用いられる主要ネットワークとして、トロンを上回りました。11月、イーサリアムのUSDT供給量は31.4%増の618億米ドルとなった一方、トロンのUSDT供給量は同期間に3.4%の減少となりました。強気の市況の中でのオンチェーン活動増加に伴い、DeFi分野のイーサリアムの優位性と機関投資家に対する強い訴求力により、ステーブルコインの流動性シェアが増加しました。

02 / 暗号資産市場のパフォーマンス

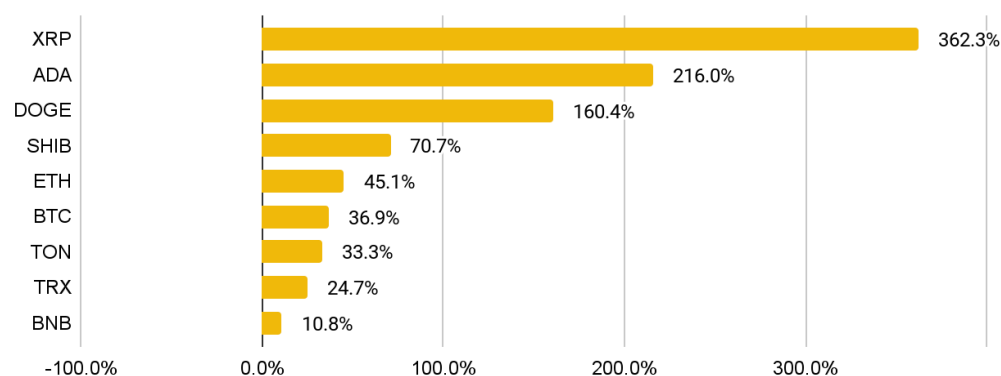
2024年11月、暗号資産市場は圧倒的な成長を遂げ、ビットコイン価格が99,000ドル超へと急騰したことに伴い、同市場の時価総額は3兆4,700億米ドルの過去最高値を記録しました。この上昇トレンドは機関投資家の持続的な資本流入により牽引され、特に7週間連続で現物ETFの資本流入がプラスの結果となったことが特徴となりました。11月単月で、65億米ドル超の純資本流入が見られています。2024年11月7日には、米国連邦準備制度理事会（FRB）において、フェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標レンジが4.5%～4.75%に引き下げられました。この利下げはより緩和的な金融政策への転換を示しており、市場参加者によるリスクオン資産への信頼の高まりを後押しするものとなっています。また、2025年1月に米国証券取引委員会（SEC）のゲイリー・ゲンスラー委員長の辞任予定の発表により、規制変更の可能性やデジタル資産にとってより有利な環境が醸成される期待が高まっています。

図1: 11月、月間暗号資産時価総額は39.9%増加

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2024年	0.4%	40.0%	16.3%	-11.3%	8.6%	-11.4%	5.6%	-12.4%	8.0%	2.8	39.9	
2023年	30.4%	3.4%	9.3%	3.2%	-6.0%	3.3%	1.0%	-8.8%	2.6%	19.0%	11.0%	15.2%
2022年	-22.6%	-0.3%	25.3%	-18.1%	-25.2%	-31.7%	21.8%	-11.4%	-2.1%	7.2%	-18.0%	-4.5%
2021年	33.9%	39.6%	31.1%	11.4%	-25.7%	-5.9%	12.5%	25.2%	-9.9%	42.9%	-1.0%	-15.0%
2020年	35.4%	-5.5%	-27.7%	38.8%	10.0%	-4.5%	25.9%	13.7%	-7.6%	14.6%	37.5%	39.7%
2019年	-11.6%	12.3%	11.1%	17.1%	55.5%	30.8%	-22.5%	-6.5%	-13.7%	14.8%	-14.7%	-7.9%

出典: CoinGecko
2024年11月30日時点

図2: 時価総額別上位10暗号資産の月間価格パフォーマンス



出典: CoinMarketCap
2024年11月30日時点

パフォーマンス（降順）

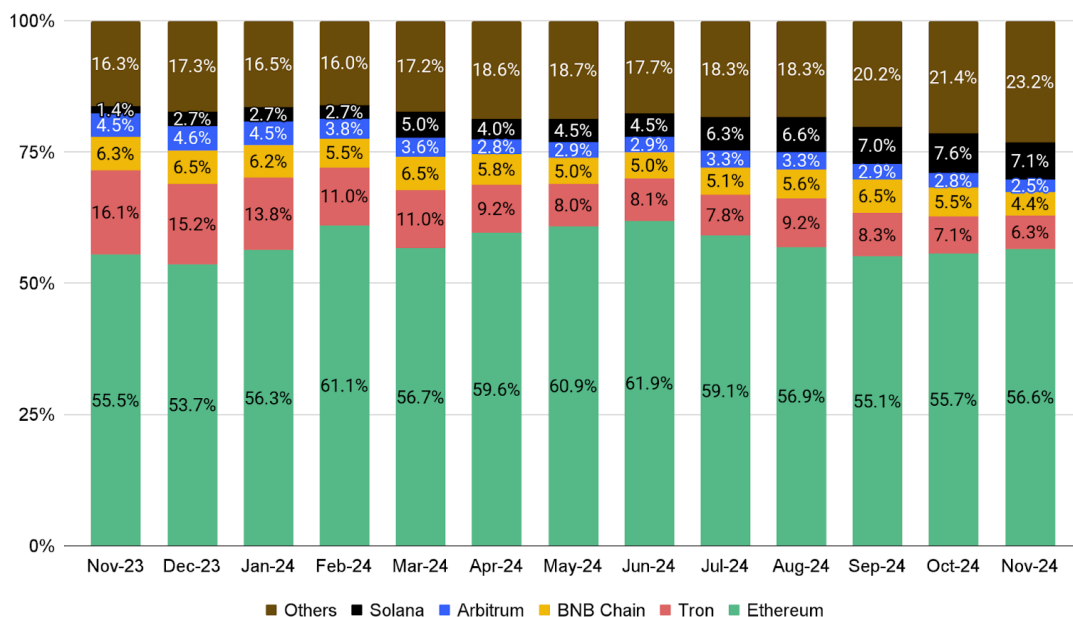
- ◆ 2024年11月、米国証券取引委員会（SEC）のゲイリー・ゲンスラー委員長の辞任予定の発表が主な要因となり、XRP価格が362.3%の上昇を見せ、トップパフォーマンスに躍り出ました。同委員会上層部の交代がリップルにとって有利な結果につながるとの見方が強まり、投資家がこれに反応しました。また、欧州拠点の大手暗号資産運用会社であるWisdomTreeは、XRPのパフォーマンスと連動する上場取引型金融商品（ETP）の発売に関する申請を行いました。これにより同トークンに対する投資家の信頼がさらに高まっています。
- ◆ ADA価格は、Charles Hoskinson氏がGlacierエアドロップでの\$NIGHTトークン割り当ての最大部分をADAホルダーに割り当てると述べた後、216.0%急騰しました。\$NIGHTは、ゼロ知識証明を活用して公および民間でのスマートコントラクト開発を統合する革新的「Midnight」プロジェクトの一翼を担うトークンです。ADAの急騰は、ビットコインが持つ1兆3,000億米ドルの流動性の活用を目指すカルダノとBitcoinOSの戦略的提携により、さらに加速しました。また、この急騰の背景として、Hoskinson氏がトランプ政権と協議する可能性が濃厚となったことが挙げられます。これにより、規制の明確化に関する期待が高まり、投資家の関心をさらに集めることとなりました。
- ◆ DOGE価格は160.4%急騰し、イーロン・マスク氏とヴィヴェック・ラマスワミ氏が主導する「政府効率化省（D.O.G.E）」の公式発表が原因となったものと見られます。同省では、政府支出における無駄と不正の削減を目指し、連邦政府の包括的な監査の実施を提案しています。また、XやRedditなどのソーシャルメディアプラットフォームとの統合の可能性に関する憶測も飛び交っており、同省を取り巻く期待感に拍車をかけています。
- ◆ SHIB価格は、暗号資産規制に関する楽観的意識の強まりとミームコインの人気の高まりを主な材料に、70.7%急騰しました。
- ◆ ETH価格は2024年11月、ビットコインと同様のマクロ経済的要因（機関投資家の資本流入やFRBによる利下げなど）を材料に、45.1%上昇しました。一方、トレーダーからのレイヤー2ソリューションへの関心の高まりに伴うイーサリアムにおけるBlob（ブロブ）の使用の激増は、イーサリアムのスケーラビリティと効率性に対する自信の高まりを強調するものとなっています。USDTに対するイーサリアムのドミナンスが再び優勢となった原因はこうした変化によるものと見られ、結果としてイーサリアムが2年ぶりにトロンを上回ることとなりました。
- ◆ 2024年11月におけるビットコイン価格36.9%上昇の要因は、ETFにおける1週間あたり平均18億米ドルの純資本流入が7週連続したことを材料にした機関投資家の関心の高まりと言えます。このパフォーマンスは、ビットコインに対する資産クラスとしての信頼の高まりを示しています。同市場は、11月7日に行われたFRBの利下げに対しポジティブに反応し、リスク資産の上昇につながりました。また、米国大統領選挙の結果も投資家センチメントを強気に傾けました。市場では、新政権において規制上の有利な変更（特にデジタル資産の監視に関

するもの)が見られることが期待されています。こうした動向を受け、ビットコイン価格は史上最高値である99,000ドルをつけました。

- ◆ 2024年11月、主に暗号資産規制に関する楽観的意識の強まりを材料に、TON価格は33.3%上昇し、TRX価格は24.7%上昇しました。
- ◆ 2024年11月、BNB価格は10.8%上昇しました。この上昇は、ピア・ツー・ピア(P2P) ファイル共有プラットフォームであるLimewireなどの大型プロジェクトを呼び込んだBNB Greenfieldの成功が支えることとなりました。

2.1 分散型金融 (DeFi)

図3: 上位ブロックチェーンのTVL市場占有率



出典: DeFiLlama
2024年11月30日時点

11月におけるDeFiのTVL（総預資産）は、10月におけるオンチェーンのモメンタムと暗号資産分野の規制の明確化に対する期待の高まりに牽引され、33.7%の驚異的な増加となりました。TVLの上位はソラナ、Base、Suiが占め、それぞれ43.4%、32.9%、54.0%と大幅なTVLの成長率を見せました。

中でもソラナが突出しており、機関投資家と個人投資家両方の資本がレイヤー1ブロックチェーンに注入された中、そのTVLは過去最高となる88億米ドルに到達しました。リキッドステーキング分野では、ソラナのスケーラビリティと効率性を活用するJito、Sanctum、Binance Staked Sol (BNSOL) などのプロトコルが目立った結果を残しました。オンチェーン取引高が増加する環境で必要不可欠な取引インフラを構築する流動性プロバイダー、DriftとRaydiumが、顕著にこの成長を後押ししました。現実資産 (RWA) 分野の急速な成長は、ブロックチェーンネットワークを現実世界のデータと結び付けるイネーブラーとなるChainlinkなどのプロジェクトの興隆に拍車をかけています。特にChainlinkでは、デジタル資産を具体的なユースケースと結び付けるためのインフラに対する需要増に反応する形で、同ネットワークにおける開発者の活動量が1万4,450%増加しました。

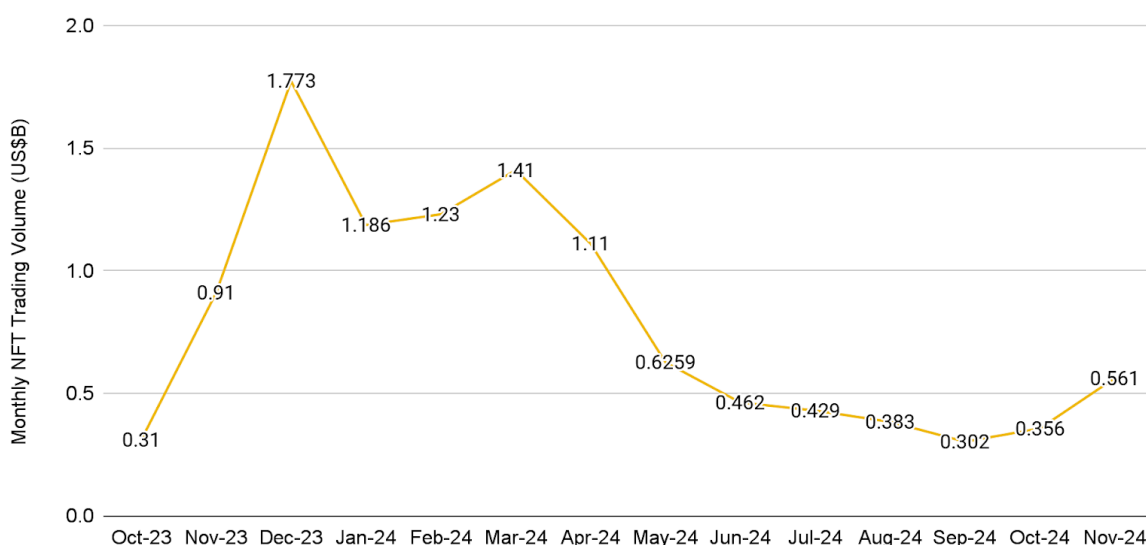
BaseのDeFiにおけるTVLは増加を続け、2024年11月は33.4%増の34億米ドルに到達し、レイヤー2ソリューションにおける強豪としてのBaseの地位が確立しました。この成長は、貸付・借入市場の新たなモメンタムと主要なプロトコルにおけるパフォーマンスの強さが牽引したほか、ユーザー参加数の急激な増加が後押ししています。UniswapのTVLは、BaseとArbitrumの統合に起因する形で55.4%の増加と突出しており、流動性において筆頭となるプラットフォームとみなされています。

同ネットワークにおける日次トランザクション数は新記録となる920万超を達成し、スケーラビリティとDeFiユーザーに対する訴求力が強調されています。

SuiのDeFiにおけるTVLは、Suiベースのチェーンへの大規模な資本移転に牽引され、16億米ドルを記録しました。Navi Protocol（貸付・リキッドステーキング）、Cetus AMM（分散型取引所、DEX）、Scallop Lend（貸付）などの主要プロジェクトすべてにおいて、TVLが顕著に増加しました。また、利回り獲得およびリキッドステーキングプロトコルであるSuiLendのTVLは、86.5%増の大躍進を遂げました。

2.2 非代替性トークン（NFT）

図4：月間NFT取引量



出典：CryptoSlam
2024年11月30日時点

11月、NFT市場の総売上高は57.6%増加し、ETH NFTの総売上高は5億米ドルを突破しました。この結果に反して、正味購入者・販売者数は、11月初旬から24.7%減少しており、少数の参加者間での高価値のトランザクションへの取引の集約化が示されています。また、市場におけるNFTの飽和が大きな問題となっており、新規のNFTコレクションにおける大規模な取引活動につながりにくい状況となっています。NFTeveningによると、本年ローンチされたNFTプロジェクトの約98%で採算が取れず、同市場が関連性、収益性、全体的なエンゲージメントの維持に苦戦していることが浮き彫りとなっています。

イーサリアムNFTの売上は、有名なコレクションの幅広いパフォーマンスを反映するものとなりました。CryptoPunksは売上高が141.4%急増して最上位となった中、Bored Ape Yacht Clubと

Pudgy Penguinsの売上高は47.1%と57.6%と堅調な伸びを記録しました。パフォーマンスが不振だった従来のコレクションでは復調の兆しが見られ、Doodlesの売上高は584.0%の急増、Azukiの売上高は97.1%の増加となりました。一方、スポーツカードのトークン化に特化した革新的コレクションであるCourtyard.ioでは、11月の1日あたり平均売上枚数が3,500枚となり、その堅調なモメンタムを維持する結果となりました。

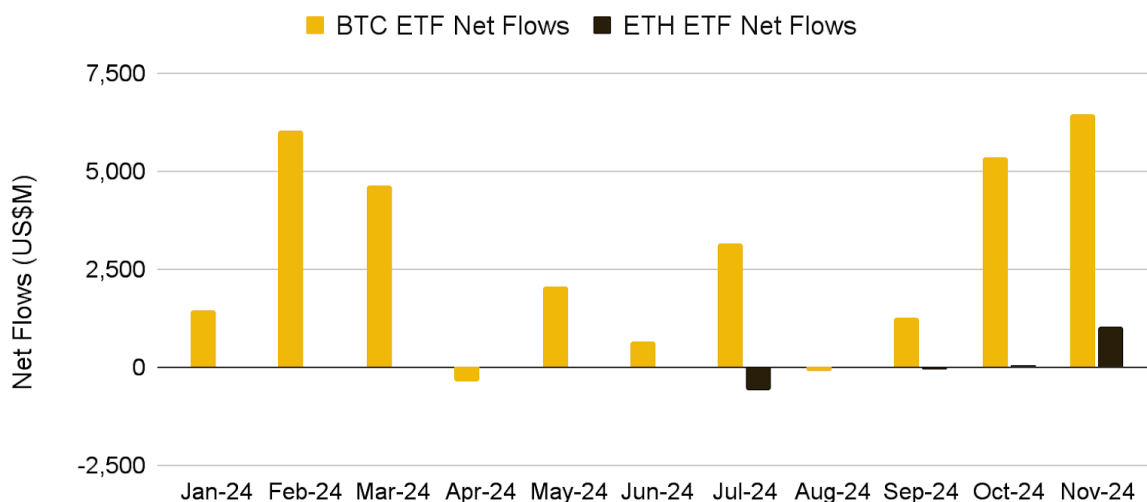
11月におけるビットコインNFTの取引高は、Ordinalsと革新的なBRC-20プロトコルの新たな盛り上がり牽引する形で、約220%急増しました。主要プロジェクトのフロア価格は急上昇し、Bitcoin Puppetsは12.0%、NodeMonkesは32.3%、ArtBlockは100.1%の著しい上昇を記録しました。取引高で上位10のプロジェクトのフロア価格が減少していない点が特筆に値し、同NFTの全体的に堅調なパフォーマンスが浮き彫りとなっています。

ソラナ、ポリゴン、BNBチェーンなどのその他のチェーンにおける売上高は、ソラナが19.3%、ポリゴンが28.6%、BNBチェーンが48.1%と大幅に増加しました。10月のモメンタムを足場に、NFT分野全体が穏やかながらも堅調に推移しており、暗号資産市場全体における楽観的意識の広がりを示すものとなっています。

03 / 今月のチャート

11月、ETFで過去最高の資本流入額を記録

図5: 11月、ビットコイン現物ETFおよびイーサリアム現物ETFの両方で過去最高の資本流入額を記録



出典: farside.co.uk、Binance Research
2024年11月30日時点

11月、ドナルド・トランプ氏が再選した米国大統領選挙の結果に支えられ、ビットコイン現物ETFおよびイーサリアム現物ETFによる資本流入額が過去最高となりました。11月18日～22日には週の純資本流入額が史上最高となる33億米ドルを記録したのを筆頭に、米国のビットコイン現物ETFへの純資本流入額は65億米ドルとなりました。11月におけるイーサリアム現物ETFでは純資本流入額が11億米ドルとなり、11月29日には過去最高となる約3億3,000万米ドルの日次純資本流入額を記録しました。

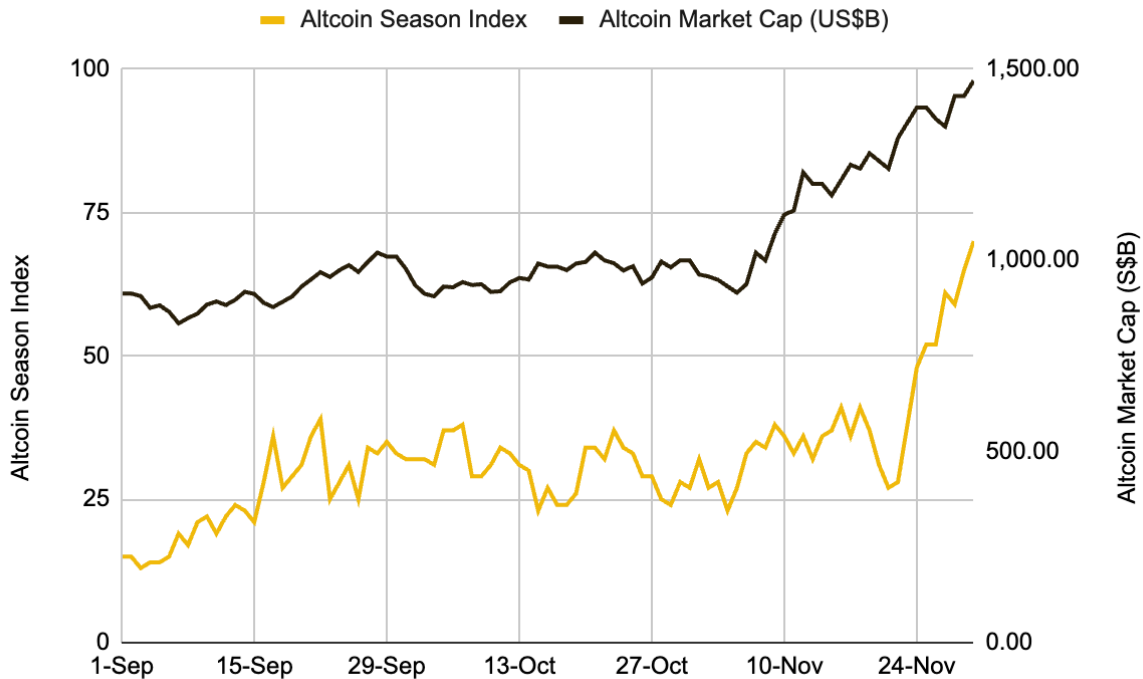
全体として、ビットコインETFは本年1月の発売以来、300億米ドル超の純資本流入を記録しており、イーサリアムETFでは本年7月の発売以来5億7,700万米ドルの純資本流入を記録しています。ビットコイン現物ETFの取引高は5億5,500億米ドル超、運用資産残高合計は1,000億米ドル超となりました。一方、イーサリアムETF全体の取引高は約280億米ドル、AUMは92億米ドル超となりました。

BlackRockのiShares Bitcoin Trust (IBIT) は、累積資本流入額が310億米ドル超、資産額が420億米ドルを誇り、同市場全体の約40%を占めるトッププレイヤーとなっています。Fidelityの商品では、純資本流入額が110億米ドル、資産額が220億米ドルで2位となっています。一方、イーサリアムに関しては、Grayscaleが運用するETFが資産額54億米ドルで上位、続いてBlackRockが資産額23億米ドルとなっています。

次期大統領のドナルド・トランプ氏が複数のNFTコレクションとDeFiプロジェクトを保有しており、上院と下院において暗号資産支持派の議員が過去最高数選出されたことを踏まえると、2025年の米国では暗号資産規制の進展が見込まれます。デジタル資産に関する明確な規制の制定により、従来型金融 (TradFi) 機関にとってより明確さが得られ、さらに既存の暗号資産ETFにメリットがもたらされることとなり、ETF商品の数が増える可能性があります。

アルトコインシーズンの再来

図6: 勢いを増すアルトコイン、上位100のアルトコイン時価総額が1兆5,000億米ドル付近を記録



出典: CoinMarketCap、Binance Research
2024年11月30日時点

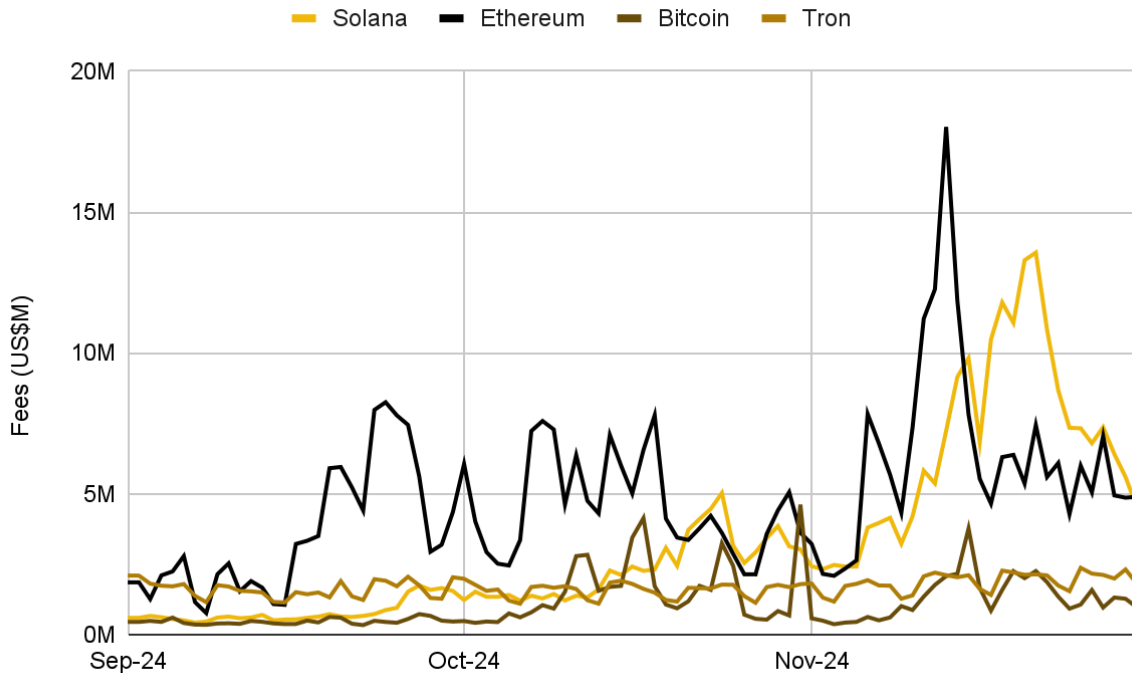
CoinMarketCapのアルトコインシーズン指数（Altcoin Season Index）によると、過去数か月間のアルトコインの勢いは増えています。上位100位の暗号資産（ステーブルコインとラップドトークンは除く）でのローリングした90日間の価格パフォーマンスを評価する同指数は、10月末の27から11月末の70へと大幅に上昇しています。この上昇トレンドは、暗号資産市場全体の著しい価格上昇に牽引され、アルトコインの強さの高まりを示しています。

アルトコインシーズン指数の上昇と併せ、同期間におけるアルトコイン上位100銘柄の時価総額は1兆米ドルから1兆4,700億米ドルに急増し、アルトコインに対する関心の高まりを強調しています。また、11月中のビットコイン価格は100,000ドルを突破できず、その後ビットコインのドミナンス（市場占有率）は前月比で59.0%から56.7%に減少しました。このトレンドは、アルトコインが同市場において大きくシェアをとっていることを示すと同時に、投資家の志向の変化を反映している可能性があります。

ポジティブなモメンタム的一方、アルトコインシーズン指数は、CoinMarketCapが設定するアルトコインシーズンのしきい値（過去90日間におけるアルトコイン上位100銘柄中75%のパフォーマンスがビットコインのパフォーマンスを上回る値）にまだ到達していないことも踏まえる必要があります。このトレンドがアルトコインシーズンの継続を示しているのか、または単なる価格の一時的な急上昇を示しているのかを見極めるに当たり、今後数週間の動向が重要になります。

ソラナでの発生手数料が史上最高値に急騰

図7: ソラナでの発生手数料が史上最高値に到達、14か月連続でイーサリアムを上回る



出典: Artemis、Binance Research
2024年11月30日時点

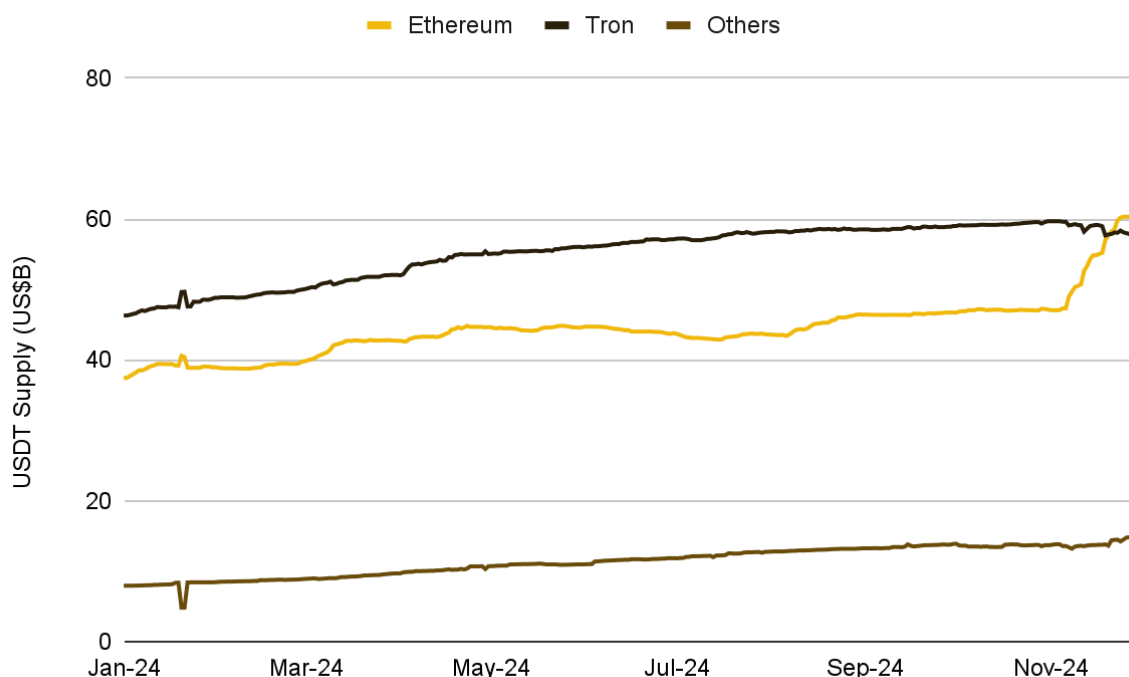
11月15日以降、ソラナでの1日あたりの発生手数料は14日連続でイーサリアムでの1日あたりの発生手数料を上回り、11月21日に1,400万米ドルの過去最高値を記録しました。その後、11月30日にイーサリアムでの発生手数料を下回りました。この発生手数料の急増は、11月のソラナの分散型取引所（DEX）における取引高が1,200億米ドルに到達した（10月の取引高520億米ドルの2倍以上、同期間のイーサリアムでの取引高630億米ドルのほぼ2倍）ことに由来しています。

ミームコインの過熱によりソラナでのアクティビティが激増する中、ミームコインのローンチパッドプラットフォームであるpump.fun上で異様な状況が見られるようになりました。同プラットフォームでは、トークンが一定の時価総額に到達しない場合、ストリーミング配信者が飼い犬に危害を加えると視聴者を脅すなどの極めて不快なコンテンツが見られました。コミュニティからの苦情を受け、ライブストリーミング機能は停止されることとなりました。

長期的には、ブロックチェーン技術により実現するパーミッションレス市場により、市場参加者はそのリソースを適切であると考えられるほぼすべてのアイデア、事業、テクノロジーに割り当てることができるようになります。市場参加者が共同で資本およびアテンション（関心）の配分を指定できるようになったことが、同業界の将来的な成長を導くと言えます。

イーサリアムとトロンのUSDTドミナンス順位が入れ替わる

図8: 今月のイーサリアムのUSDT供給量は31.4%急増して618米億ドルとなり、2022年以来初めてトロンを上回る



出典: DeFiLlama、Binance Research
2024年11月30日時点

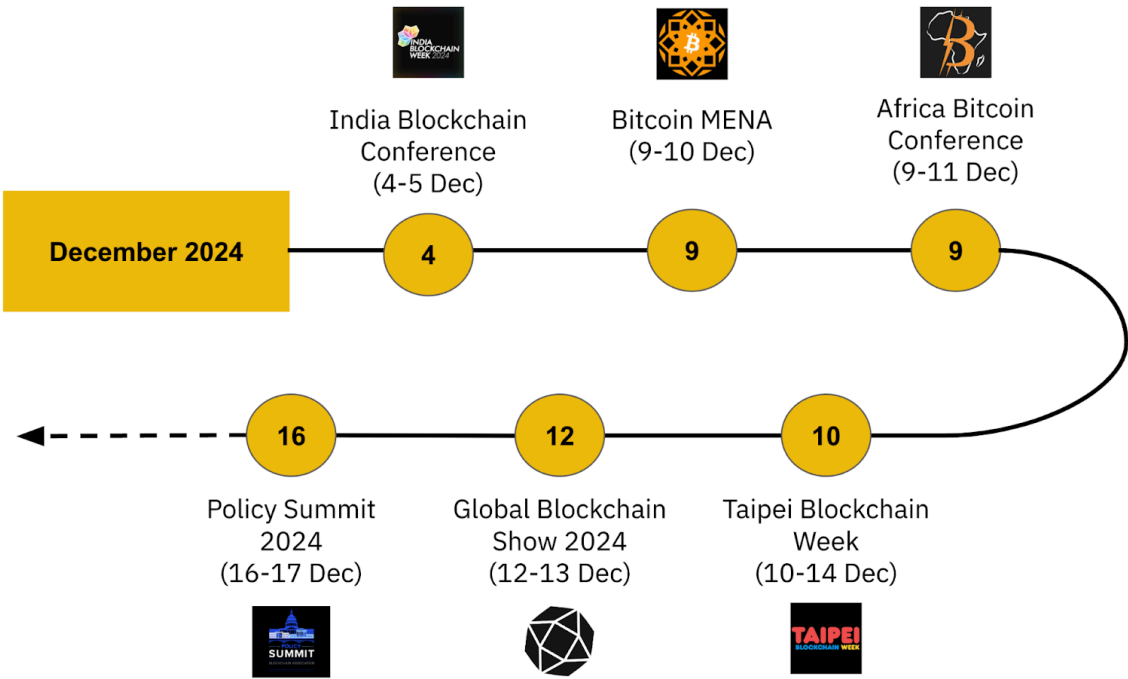
イーサリアムは、2022年6月以来初めて、USDTステーブルコイン供給量でトロンを上回る主要ネットワークとなりました。今月におけるイーサリアムのUSDT供給量は31.4%増の618億米ドルとなり、年間65.0%の目覚ましい成長を遂げました。市場全体でのUSDT供給量は増加の一途を辿る中、トロンの成長はますます鈍化しており、前年比では24.2%増加となったものの、今月は3.4%の減少となりました。

USDT供給量の急増は主に強気の市況に由来するものであり、11月上旬以降、暗号資産市場では約1兆米ドル近くの同ステーブルコインが追加されています。再びの急増により、個人投資家と機関投資家両方の新たな関心に火が付き、オンチェーン活動が増加しています。こうした環境において、USDTなどのステーブルコインは、暗号資産エコシステムにおける取引の流動性、資本移動、市場活動全体を支える主要イネーブラー（媒体）として機能し、重宝されることになります。

以上の背景に対し、今回のUSDTの供給量増加により大きく持ち上げられたのはイーサリアムとなっています。トロンは手数料の廉価さと高速トランザクションでその人気を維持している一方、イーサリアムのDeFiにおけるドミナンスと機関投資家の採用数の多さが堅実な魅力として際立っています。市場活動が増加の一途を辿る中、特にDeFiやトークン化関連のユースケースの需要が増える強気局面において、イーサリアムがステーブルコインの流動性供給に関する主要な選択肢として優勢になっています。こうしたトレンドが継続するか否かは、市場活動の動向、ならびに多様なチェーンにおけるステーブルコイン関連アプリケーションの需要の高まりにかかっています。

04 / 今後のイベントとトークンのアンロック

図9: 2024年12月に実施される注目すべきイベント



出典: Itez、Binance Research

図10: トークンアンロック数量上位（米ドル換算）

PROJECT	TOKEN	UNLOCK IN US\$ EQUIVALENT	% OF SUPPLY	UNLOCK DATE
	SJITO	498.0M	13.7%	7 Dec
	\$SUI	221.47M	2.79%	3 Dec
	\$APT	149.85M	2.12%	12 Dec
	\$ARB	94.96M	2.26%	16 Dec
	\$OP	82.5M	2.57%	27 Dec
	\$IMX	49.99M	1.44%	27 Dec
	\$ID	35.12M	18.20%	22 Dec
	\$NEON	22.22M	5.39%	7 Dec
	\$ZKJ	17.22M	17.00%	19 Dec
	\$AI	7.91M	8.20%	4 Dec

出典: CryptoRank、Binance Research

05 / 參考資料

defillama.com/
coinmarketcap.com/
cryptoslam.io/
token.unlocks.app/
dune.com/
itez.com/events
<https://cryptorank.io/>

06 / 最新のBinance Researchレポート

FRB、金利、経済：導入編 - [リンク](#)

FRB、利下げ、主な経済変数、資産の歴史的パフォーマンスについて解説しています。



暗号資産分野におけるAIエージェントの今後を探る - [リンク](#)

AIエージェントと暗号資産の融合、その発端、主要なプロジェクト、課題、将来的な影響について解説しています。



Binance Researchについて

Binance Researchは、世界有数の暗号資産取引所であるバイナンスの調査部門です。暗号資産に関する客観的かつ独立した包括的分析の提供に努めているほか、暗号資産分野におけるソートリーダーを目指しています。アナリストは、暗号資産エコシステム、ブロックチェーン技術、市場の最新テーマなどのトピックに関する洞察に満ちた見解を定期的に公開しています。



Jie Xuan Chua
マクロリサーチアナリスト

Jie Xuan Chua（ジエ・スアン・チュア、以下「JX」）は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めています。バイナンスへの入社前、JXはJ.P. Morganにグローバル投資スペシャリストとして勤務し、多彩なファンドハウスで証券の調査を担いました。また、CFA協会認定証券アナリストでもあります。暗号資産分野には、2017年から携わっています。



Shivam Sharma
マクロリサーチアナリスト

Shivam Sharma（シヴァム・シャルマ）は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めています。バイナンスへの入社前、Shivamは投資銀行であるバンク・オブ・アメリカのデット・キャピタル・マーケット（DCM）部門で欧州の金融機関に特化したアソシエイト/アナリストとして経験を積みました。Shivamはロンドン・スクール・オブ・エコノミクス&ポリティカル・サイエンス（LSE）において経済学の学士号を取得しており、暗号資産分野には2017年から携わっています。



Joshua Wong
マクロリサーチアナリスト

Joshua Wong（ジョシュア・ウォン）は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めています。暗号資産分野には、2017年から携わっています。バイナンスへの入社前、WongはWeb3のフィンテックスタートアップ企業のプロダクトマネージャーとして勤務していたほか、DeFiスタートアップ企業の市場アナリストとしても活躍していました。ダラム大学で法学士（LLB）を取得しています。



Moulik Nagesh

マクロリサーチアナリスト

Moulik Nagesh（ムーリック・ナゲージュ）は、バイナンスでマクロリサーチアナリストを務めており、暗号資産分野には2017年から携わっています。バイナンスへの入社前、Moulikは、Web3とシリコンバレー拠点のテック企業において組織横断的な役割を担う経験を積みました。スタートアップ企業の共同設立の経験を持ち、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス（LSE）にて経済学学士号を取得したMoulikは、同業界に包括的な視点をもたらしています。



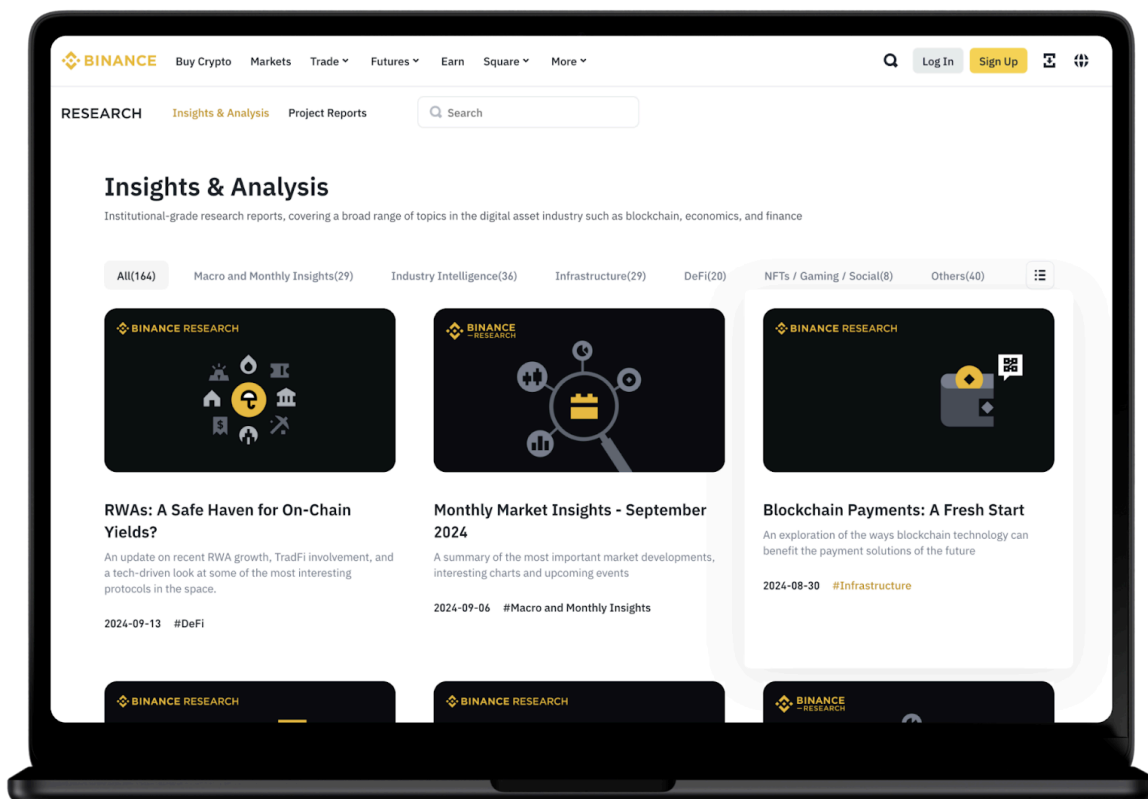
Jamyson Gouveros

マクロリサーチアナリスト（インターン）

Jamyson Gouveros（ジャマイソン・グーヴェロス）は、マクロリサーチアナリストのインターンとしてバイナンスに勤務しています。バイナンスへの入社前、Jamysonはベンチャーキャピタルアナリストとして勤務していたほか、プレシード投資家としても活躍していました。Jamysonはニューサウスウェールズ大学（UNSW）の2年生であり、暗号資産分野にはトークン化関連のスタートアップを設立した2021年から携わっています。

リソース

Binance Research - [リンク](#)



フィードバックは[こちら](#)からどうぞ

一般的な情報開示: この資料はBinance Researchが作成したものであり、予測や投資助言目的で利用されることを意図したのではなく、また有価証券や暗号資産の売買および投資戦略の採用を推奨、提案、勧誘するものでもありません。用語の使い方および見解は、この産業分野の理解と責任ある発展を促進するためのものであり、法的見解またはバイナンスの見解として解釈されるべきものではありません。表明された意見は、上記の日付時点での執筆者の見解となります。その後の状況の変化により、内容は変動する可能性があります。本資料に含まれる情報および意見は、Binance Researchが信頼できると判断した独占的および非独占的情報源から得られたものであり、必ずしもあらゆる情報を網羅するものではなく、正確性を保証するものではありません。そのため、バイナンスは正確性や信頼性を保証するものではなく、誤りや省略に関しあらゆる形で発生する責任（過失によるあらゆる人物に対する責任を含む）も負いません。この資料には、純粋な歴史的事実ではない「将来の見通し」情報が含まれている可能性があります。このような情報には、予測や予想などが含まれることがあります。いかなる予測も、その実現を保証するものではありません。本資料に記載された情報を信頼するか否かは、読者の単独の判断に委ねられます。この資料は情報提供のみを目的としたものであり、一切の証券、暗号資産または一切の投資戦略の購入または売却についての投資助言、提案または勧誘を構成するものではなく、また、読者の当該法域の法律により提案、勧誘、購入または販売が違法とされる相手に対しいかなる有価証券または暗号資産をも提供または販売するものでもありません。投資には、リスクが伴います。詳細は、[こちら](#)をクリックしてご覧ください。